

広報・教育部門

応募事例名

人工湿地の花壇による下水処理のグリーン化・可視化

応募団体名)郡山市上下水道局

応募事例の概要

①人工湿地(花壇)と汚水処理施設を組み合わせた下水処理の可視化による過疎地の下水道の魅力・可能性再発見。



■PRポイント

- ・郡山市と日本大学工学部との下水道事業における連携協定による事業に基づき、日本大学工学部が研究する下水処理技術「ロハスの花壇」の実証実験装置を下水処理施設の敷地内に設置
- ・実験装置の上部に地元住民と夏にヒマワリの苗を植えた。
- ・小学生の環境学習の一環として花壇の仕組みを学習し実際に下水がろ過され水が透明になることを確認。さらに咲いたヒマワリを収穫し、春に向けてチューリップの球根と菜の花の種を蒔いた。
- ・実験環境が豪雪地に関わらず、冬期間も下水処理が行え、春にはチューリップが開花した。

■具体的効果について

- ・小学生が湿地(花壇)を通して汚水処理の仕組みを理解するとともに、下水道に関心を持った。
- ・ヒマワリの苗植えを地元参加型のイベントにしたことにより、処理施設の役割、重要性に改めて気づいてもらうことができた。
- ・汚水処理施設と人工湿地の花壇の共存による当該施設の魅力、可能性に気づいてもらうことができた。